

（１）開放を促進すべき機能の見直し

情報通信審議会「ネットワーク環境の変化を踏まえた接続政策等の在り方」第一次答申（令和８年９月４日。以下「一次答申」という。）を踏まえ、５Ｇ（ＳＡ方式）のＬ２接続相当に係る機能（５ＧＣ連携機能（※））を追加。また、既に別の方法で実現し、今後もMVNOからの要望が見込まれない機能を削除【P.20,21,62】

（※）現時点では「ローミング方式」と「Proxy方式」の２つの方式があり得る（次ページ参照）。

（２）接続料算定における固定資産の配賦基準の見直し（令和８年３月３１日総基料第６１号関連）

一次答申を踏まえ、接続料算定における固定資産の配賦について、ネットワーク資産額比の算出にリース資産を含めるとともに、回線数比の算出に当たって、期首・期末の回線数を平均した稼働回線数比で算出することについて整理【P.23,62】

(参考)「5 G C連携機能」として現時点で想定されている2つの方式 (接続形態)

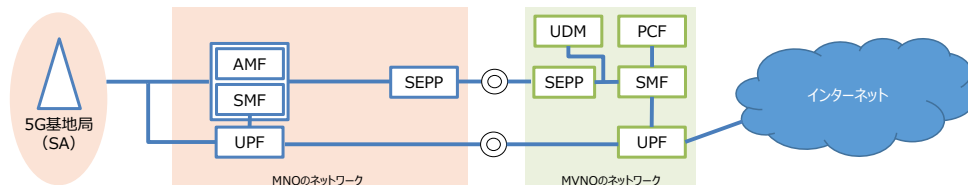
- 「5 G C連携機能」は、MVNOとMNOの5 G Cを5 Gの標準インタフェースであるSBIで連携させることで、MVNOがMNOの5 G無線アクセス網を利用して**5 G (SA方式) のサービスを実現するための機能**。
- 現時点では「ローミング方式」と「Proxy方式」の2つの方式があり得るところ(※)、概要は以下のとおり。

※これまで実施された事業者間協議の結果、現時点で実現可能とされた方式であり、当該機能の提供に当たってはこれらの方式に限られない。

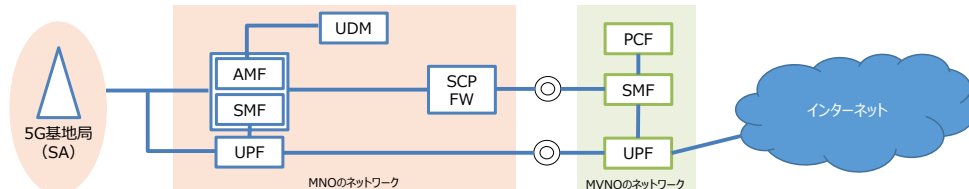
■現在想定されている2つの方式 (2026年10月時点)

	SIM	電話番号 /IMSI	データ通信	回線毎の 帯域制御	音声通信 (参考)	特徴
ローミング方式	MVNOが提供	MVNOが提供	MVNOが提供	MVNOが実施	MVNOがIMS に係る設備を 準備	・標準化された国際ローミングの方式に準拠 ・MVNOがUDM等を保有し高い独立性を確保
Proxy方式	MNOが提供	MNOが提供	MVNOが提供	MVNOが実施	MNOのIMSを 利用(音声卸)	・制御信号を終端するSCPを用いてSMFを中継 ・MNOのUDM等を活用することで、ローミング方式より簡易かつ低コストで導入可

ローミング方式のネットワーク構成



Proxy方式のネットワーク構成



・AMF (Access and Mobility Management Function) : 5G SA在圏時のモビリティ制御などを提供する機能
 ・SMF (Session Management Function) : セッションを管理する機能
 ・UPF (User Plane Function) : パケットのルーティング等を担う機能
 ・UDM (Unified Data Management) : 加入契約情報や端末認証情報、端末の在圏位置情報を保持する機能

・PCF (Policy Control Function) : ポリシー制御などを提供する機能
 ・SEPP (Security Edge Protection Proxy) : ネットワーク間の制御信号を暗号化・保護し、安全な中継を実現する機能
 ・SCP (Service Communication Proxy) : ネットワーク機能間が直接通信する代わりに信号の中継を行う機能
 ・FW (Fire Wall) : 不正な通信を遮断するセキュリティシステム